

## 三位一体の主日

第一朗読 箴言 8・22-31  
第二朗読 ローマ 5・1-5  
福音朗読 ヨハネ 21・1-14

2019. 6. 15

カトリック高円寺教会 18:30 ミサ  
京都司教区司祭 国本静三神父

キリストの復活からこのヨハネの福音がずっと朗読されています。そして、その一つのキーワードは、わたしたちの言葉で言えば、三位一体の教えであります。常に、「わたしが父から受けたことをあなたがたに告げる」、「父からわたしは栄光を与えられる」、また、興味深いことに、「わたしも御父に栄光を与える」とおっしゃる。そして、今日の聖霊のところでは、「その方はわたしに栄光を与える」、しかし、「わたしのものを受けて、あなたがたに聖霊は告げる」と。三位一体についていろいろおっしゃっているわけであります。

三位一体という一つのコンセプトといいますか、言葉は、わたしたちはもっとも古いひとつの信条を示したニケヤ・コンスタンチノーブル信条を教会で唱えます。教会によって使徒信条のほうを唱えているところもあります。その中に三位一体という言葉は出てきませんが、三位一体を信仰宣言しております。それで、ニケヤ公会議は4世紀であり、そして、その後大体4世紀のしばらくたったところでコンスタンチノーブル公会議、それが合併したものが今わたしたちの唱える信条です。

大変興味深いことですが、アウグスティヌスが、この公会議は4世紀のことでありましたが、4世紀終わり頃にアウグスティヌスの『告白』という本があります。その中で、三位一体という言葉が初めて使われているように思われます。そして後に、5世紀にちょっと入ったところで、ジャスト 400 年位だったと思いますけれども、『三位一体論』という著作を著します。これも大変興味深いことでもあります。

わたしたちはこの言葉を人に説明しようとするとなんがなんだかわからなくなるわけですが、わたしたちは教会の歴史の中で、知恵の中で、これを信仰の中に納めているわけであり、何を言うにしても、わたしたちのこの信仰は大変重要です。一言で言えば、新約聖書を読むときにこのコンセプトがなければなんにもわからないと言っても過言ではない。特に福音の部分は、これがないと、ちょっと乱暴な言い方をすれば、何も面白くない。「何に感動する

んですか」と言いたくなるくらいです。これが根底に深く、御本人が語っている言葉を収録してあるわけですから、その方の御子の行い、言行録が記してあるわけですから、特にヨハネの福音は非常に、このことが分からなければ心に響かない。どうか皆さん、これを今日、この日に、ちょうどクリスマスからキリストの受難、復活と、ずっとキリストの、御子の姿をわたしたちは見てきたわけでありましてけれども、これによってわたしたちは御子の姿を偲ぶことができる、そして、心に描くことも出来ます。

今日のパウロのローマの教会への手紙の中でも、「わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです」と言っております。そして、箴言の非常に味わい深い言葉、わたくし自身にとっては非常に幸せな気分にしてくれる結びの中で、「日々、主を楽しませる者となって／絶えず主の御前で樂を奏し／主の造られたこの地上の人々と共に樂を奏し／人の子らと共に楽しむ」。音楽をやらない人であれば、人の交わりの中で、と捉えてもいい。どこへ出ても、電車に乗っても、バスに乗っても、やっぱり人と一緒にいることは非常に楽しい、幸せです。もしくは、皆さんにとっては家族、そして友人の集いの中で、常に神との結びつきの中で楽しみ、幸せを感じられるのは、三位一体の信仰のおかげです。

わたしたちの身の回りは、お陰様でどこに行っても年寄りにも優しくなってきましたね。それが少し過剰な場合がありますけども、サービス業的に「お気をつけてお帰りください」、コンビニでもそんなことを言う若い人がいますけども、大変ありがたい。わたしたちもそういうようなことを口で言ってもいいわけですけども、わたしたちが言うときには心から、三位一体の神の愛に準じた者として「気をつけてくださいませ」と言えるようになれば非常にいいわけです。どこへ行っても、誠実な心で、どうかサービス精神で、サービス精神というのはセルヴィティオというラテン語の言葉から出たものです、仕えるということです。深く言えば、神に仕える、と。それがサービスという言葉に英語では変わってますけども、そういう、多くの人に仕える気持ちをどうかお持ちください。それによって、三位一体の神秘の信仰を実現して、そして、表現してください。